

入学試験における出題意図について（2026年度純真学園大学 学校推薦型選抜・社会人選抜）

■小論文

本学のアドミッションポリシーでは、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」に則り、幅広い教養と高い専門知識・技術を身に付け、社会に貢献しようとする意欲ある人を求めている。学校推薦型選抜・社会人選抜においては、各学科が入学までに身につけておくべき能力として共通して掲げる「国語（読解力）」、及び「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」に関する資質を、小論文を通じて総合的に評価することを意図した。

課題文には、國松淳和『医者とは患者の何をみているか プロ診断医の思考』から、未知・未経験の疾患をいかに診断するかを論じた評論を用いた。受験生が人間と健康・医療をとりまく事柄に関心を持ち、主体的に考える契機となるよう選定した。

〔問一〕は、本文を二〇〇字以内で要約させる問題である。傍線部や一部分だけでなく、文章全体の論理構造を正確に読み取り、要旨を簡潔に再構成する力を測ることを目的とした。これは各学科が共通して求める「読解力」、及び「多様な情報の背景や根拠を読み解き、適切に判断できる力」を評価する意図に基づくものである。

〔問二〕は、本文を踏まえ、「自分の経験」と「他人の経験」を医療従事者が医療でどのように生かすべきかについて、自分の考えを八〇〇字以内で論述させる問題である。課題文の主題を的確に捉えたうえで、物事を多面的にとらえて深く考え、自分の思考を筋道立てて文章として表現できるかを評価することを目的とした。あわせて、課題探求・問題解決への意欲や、社会に貢献しようとする目的意識といった「関心・意欲・態度」の面も読み取ることを意図している。特に社会人選抜の受験生にとっては、これまでに培った経験を医療の場でどのように活用するかを自らの言葉で語ることのできる設問設計とし、多様な背景を持つ入学者を選抜するという入学者選抜基本方針に沿うものとした。

なお、試験時間は九〇分とし、課題文の読解、構想及び記述に十分取り組める時間を確保した。